

# 英文「筆写」のすすめ—アウトプットにつなげるために

林 剛司 (神戸学院大学専任講師)

今回の特集は「筆写」。本紙の人気連載「放課後ブッククラブ」筆者の林剛司さんは、中学生の頃から英文の筆写と音読を続けているそうです。長年の経験に基づく効果的な筆写のポイントを、昨年秋に発売された朝日新聞社の「天声人語 書き写しノート 英訳版」(以下「書き写しノート」)を使って教えてくれました。

**同**時通訳の先駆者であった國弘正雄さんは、その著書(國弘正雄編「英会話・ぜったい・音読【標準編】」講談社インターナショナル)で「目で見ただけで文章を手を動かして書き写しているうちに、知的記憶から運動記憶に置き換えられて自分の中に入っていきます。(中略)これを繰り返しているうちに、頭の中に英語を理解する回路が徐々に出来上がってくるのです」と述べています。「読む・聞く」ことも、もちろん語学力アップにはつながりますが、「話す・書く」といったアウトプットにつなげるには、その言語を身体に染み込ませる必要があります。筆写は、その有効なトレーニングになるのです。

今回は筆写のポイントについて、最近使っている「書き写しノート」を例にご紹介します。



イラスト 菅原保子

## 「書き写しノート」活用の極意

### (1) まずは内容を理解 「ご無沙汰語」も同時にチェック

理解していない英文を筆写しても、手を動かすだけの作業に終わり、残念ながら効果は望めません。あらかじめ、分からない語については全て辞書を引き、確認しておくことが大切です。「書き写しノート」には調べたことを書き留めるメモ欄がありますので、活用するとよいでしょう。

私は、初めて出会う(意味が分からない)語だけでなく「知ってはいるが最近使っていないかった」あるいは「久しぶりに再会した」語(私は「ご無沙汰語」と呼んでいます)も調べ、意味の確認だけでなく例文も書き写します。そして本文中に、初めて出会う語は赤線、「ご無沙汰語」は青線、というように色分けして下線を引きます。赤線を引いた語は少なくとも「受動語彙(ごい)」(聞いたり読んだりして理解できる)に、青線の語は「能動語彙」(会話や作文で自ら使える)にできるよう、筆写を繰り返します。

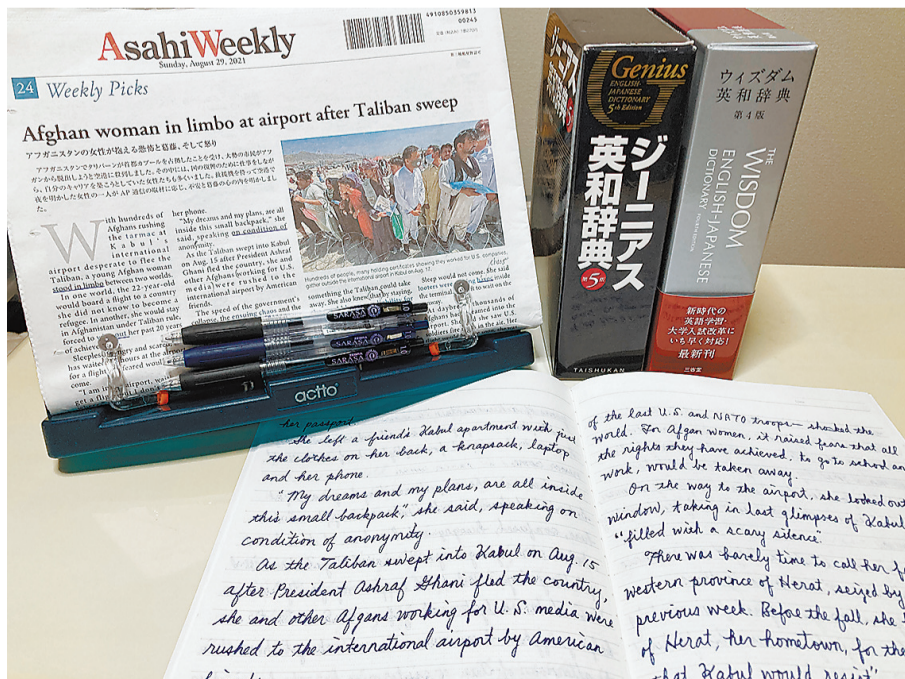
### (2) 1語ずつでなくフレーズ単位で

意味を理解できても、単語を1語ずつ書き写すのでは、英文が身体に染み込むという効果は期待できません。理想的には1文ずつ、長い場合はフレーズごとに頭に入れて進めるようにしましょう。例えば以下のように、意味の塊ごとに頭に入れて書くことを意識してください。

A new U.S. administration / is being sworn in / on January 20.

### (3) 興味のある文章から始める

まずは原文を読み、興味・関心を持ってそうなものから筆写を始めましょう。興味のない文章は、母語であっても頭に残りにくいものです。興味のあるコラムを筆写するうちに、思いがけず新たな興味の種に出会うこともあるかもしれません。そして知らず知らずのうちに、楽しめる世界が増えていくでしょう。



筆写時の机上イメージ。筆写の際はサラサラ書くために筆記用具にもこだわりがあるそうです。「鉛筆ならBや2Bなどの柔らかい芯のものを使っています」。右の写真は林さんの「書き写しノート」(いづれも林さん提供)

### (4) 暗記を目指す必要はない

筆写を勧めると「暗記が必要ですか?」とよく聞かれます。結論から言うと、その必要はありません。ただ、筆写を繰り返すうちに、意識しなくても記憶に残ることがあると感じています。例えば、私は人の名前を覚えるのが苦手なのですが、初対面の人から名刺をもらうと、なるべく(その人に見えないように)机の上やひざの上に、指でその名前を何度か書きます。こうすると、ただ必死に名刺を眺めているよりも早く、確実に名前を覚えられるのです。

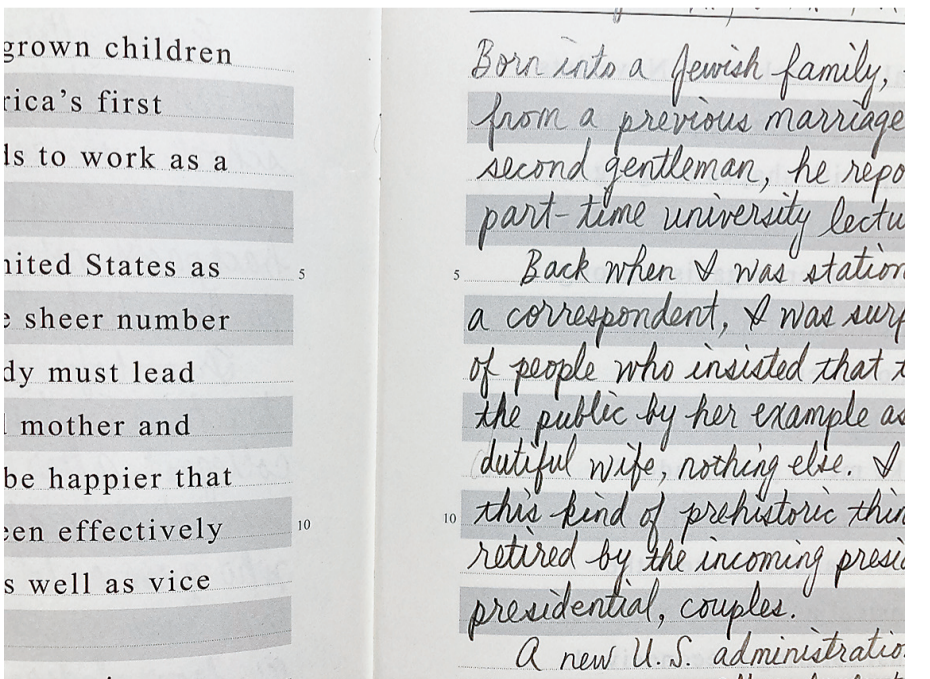
「暗記しなければ」と焦ってそれが重荷になり、筆写を止めてしまうのはもったいないです。大事なことは、英文を正確に筆写すること。普段、何げなく読み飛ばしていたような細部も、筆写によって確認できます。

暗記は「目的」ではなく「結果」としてついてくるものと考え、それよりも「継続」を目指しましょう。

### (5) 文化の違いを踏まえて会話できる人に

天声人語の英訳には、日本の事物を英語で紹介するときのヒントが詰まっています。社会的・文化的な背景知識を共有しない人に、どう英語で説明するかを学べるのです。例えば「霞が関」。日本人なら「霞が関」がただの地名ではないことは知っています。しかし、地名だということさえ知らない人にそれをどう説明するのか。「書き写しノート」にある英訳は Kasumigaseki, the seat of Japanese bureaucracy (P. 12)。このように、常に文化の違いを踏まえた表現ができる方も、同時に身に付けることができるでしょう。

「書き写しノート」をきっかけに、普段から気に入った英文を筆写し、英文の貯金をコツコツと増やしていけるといいですね。継続すれば、英語のアウトプットに正確さや深みが増していくのを実感できるに違いありません。



●「書き写しノート」の使い方について、林さんが以下の動画でさらに詳しく解説しています。ぜひご覧ください。  
<https://youtu.be/6zEbwU47OHQ>